

講義コード	515105703									
講義名	社会的養護II EF									
(副題)										
開講責任部署	幼児教育科（短大）									
講義開講時期	前期									
基準単位数	2									
時間	0.00									
代表曜日	火曜日									
代表時限	3時限									
科目分類名	専門科目									
科目分野名	教科に関する科目									
対象学部・年次	女子短期大学部・2年									
必須/選択	選択									
担当教員										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専任教員</td> <td>坪井 真</td> <td>指定なし</td> </tr> <tr> <td>専任教員</td> <td>教務委員会（短大）</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	専任教員	坪井 真	指定なし	専任教員	教務委員会（短大）	指定なし
職種	氏名	所属								
専任教員	坪井 真	指定なし								
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし								

授業の概要

社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを専門家（保育士など）が支援する取り組みです。そこで本授業は、事例検討を中心としたアクティブラーニング（演習プログラム）により、子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容や施設養護・家庭養護および社会的養護における計画・記録・自己評価の実際、社会的養護に関わる相談援助の方法・技術、社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援などを学び、社会的養護の実際と重要性を理解します。

授業の到達目標及びテーマ

様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する社会的養護の実際を理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。

- (1)子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解し、考察することができる。
- (2)施設養護及び家庭養護の実際について理解し、考察することができる。
- (3)社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解し、考察することができる。
- (4)社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解し、考察することができる。
- (5)社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解し、考察することができる。
- (6)主体的な姿勢で予習・復習およびアクティブラーニングに取り組むことができる。

また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に②知識・技能、③実践力と実務能力を重視します。

さらに本科目は、幼児教育科のディプロマポリシーの「1. 諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」および「8. 地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。

授業計画表

社会的養護II

回	担当	項目	内容	予習	復習

	教員				
第1回	坪井真	社会的養護における子どもの理解	①授業のガイダンス ②社会的養護における子どもの理解（講義）	皆さんが本学の学びで得た関連知識および報道などに関心をもった関連事項などを振り返り、子ども家庭支援の特徴を再確認してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第2回	坪井真	社会的養護における日常生活支援	講義・演習をとおして、社会的養護における日常生活支援の特徴と専門職の役割を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第3回	坪井真	社会的養護における治療的支援	講義・演習をとおして、社会的養護における治療的支援の特徴と専門職の役割を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第4回	坪井真	社会的養護における自立支援	講義・演習をとおして、社会的養護における自立支援の特徴と専門職の役割を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第5回	坪井真	施設養護の生活特性および実際	講義・演習をとおして、施設養護の生活特性および実際（子どもたちを取り巻く生活環境の特徴や課題、専門職の役割など）を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第6回	坪井真	家庭養護の生活特性および実際	講義・演習をとおして、家庭養護の生活特性および実際（子どもたちを取り巻く生活環境の特徴や課題、支援者の役割など）を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第7回	坪井真	前半の確認テスト	第1回から第6回の学習内容を振り返り、理解したことや考えたことを整理する確認テストに取り組みます。	前回の授業終了時に確認テストの予習箇所を提示します。第1回から第6回に該当する教科書や参考資料を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	確認テストの解答内容を振り返り、第1回から第6回の授業で学んだことを復習してください。
第8回	坪井真	社会的養護におけるアセスメントと個別支援計画の作成	講義・演習をとおして、社会的養護におけるアセスメントと個別支援計画の作成（その特徴と実際）を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
		社会的養	講義・演習をとおし	前回の授業終了時に教科書の	今回の授業内容に該当する教科書な

第9回	坪井真	護における記録および自己評価	て、社会的養護における記録および自己評価（その特徴と実際）を学びます。	予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	どを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第10回	坪井真	保育の専門性に関する知識・技術とその実践	講義・演習をとおして、社会的養護を担う保育士の専門的知識・技術と実践方法（その特徴と実際）を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを读解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第11回	坪井真	社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践	講義・演習をとおして、社会的養護に関わる相談援助の知識・技術と実践方法（その特徴と実際）を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを读解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第12回	坪井真	社会的養護における家庭支援	講義・演習をとおして、社会的養護における家庭支援の特徴と実際を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを读解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第13回	坪井真	社会的養護の課題と展望	講義・演習をとおして、現代の日本における社会的養護の課題と展望を考察します。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを读解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第14回	坪井真	後半の確認テスト	第8回から第13回の学習内容を振り返り、理解したことや考えたことを整理する確認テストに取り組みます。	前回の授業終了時に確認テストの予習箇所を提示します。第8回から第13回に該当する教科書や参考資料を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	確認テストの解答内容を振り返り、第8回から第13回の授業で学んだことを復習してください。
第15回	坪井真	総括	①第7回の授業で取り組んだ前半の確認テストおよび第14回の授業で取り組んだ後半の確認テストを解説します。 ②第1回～第13回の学習内容を振り返り、本科目全体の振り返りとまとめに取り組みます。	第1回～第13回の授業で学んだ内容（教科書や資料、自筆ノートなどの該当箇所）を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	本科目全体（第1回～第13回）の学習内容を振り返り、理解したことや考察内容を復習してください。

授業時間外の学修

【予習】

次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には90分かかると想定されます。

第1回の予習は、皆さんが本学の学びで得た関連知識および報道などに関心をもった関連事項などを振り返り、社会的養護の特徴を再確認してください。

第2回以降の予習（但し、確認テストを実施する第7回・第14回は除きます）は、前回の授

業終了時に教科書などの予習箇所を提示します。

【復習】

授業に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には90分かかると想定されます。なお、復習の成果は各自の成績評価に活用します。各回の授業内容（但し、確認テストを実施する第7回・第14回は除きます）に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。

実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
○	◎	◎	○

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行えていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
課題解決能力	他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができるとともに、解法が定まらない他者に的確なアドバイスができる	基本的に他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり、他からの支援を少し受けながら自身の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり、他からの支援を受けたとしてもなかなか自身の能力で課題を解くことが難しいので、できるだけ一緒に課題解決ができるよう支援している
レポート力 (復習も含む)	テーマについて、授業で紹介した方法、もしくはそれに類する独自の手法を使った分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析がなされている	テーマについての分析がなされていない

成績評価法 (表形式)

	評価基準	備考
定期試験	50%	定期試験 (期末試験) で授業内容全般の理解度を評価します。
小テスト等	0%	
成果発表	0%	

授業への貢献度	0%	
レポート	0%	
その他	50%	演習の成果、確認テスト（2回）、復習の学習成果により、学習状況を総合的に評価します。

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

チャット メール等の活用

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の60～100%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） 小テストや授業内レポートの活用	PBL(課題解決型授業)	授業後レポート

教科書

本科目は以下の教科書を使用します。

橋本好市・他「演習・保育と社会的養護実践」（みらい 12,100+税）

参考書

適宜、紹介します。

SDGsとの関連

4. 質の高い教育をみんなに

特記事項等

【科目のナンバリング】

SUN2306

学生へのメッセージ

家庭環境や障がい状況などにかかわらず、保育・幼児教育の専門家は、全ての子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を尊重することが社会的使命といえます。社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する取り組みです。本授業をとおして、社会的養護の実際と重要性を理解してください。

研究室（訪問先等）

中央研究棟 230 研究室

授業用E-mail

tsuboi@sakushin-u.ac.jp

成績評価法

- ① 定期試験（期末試験）で授業内容全般の理解度を評価します。（全体の50%）
- ② 演習の成果、確認テスト（2回）、復習の学習成果により、学習状況を総合的に評価します。（全体の50%）